

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3392200014		
法人名	医療法人 森医院		
事業所名	グループホーム あさひ		
所在地	岡山県赤磐市多賀1225-1		
自己評価作成日	平成22年2月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成22年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療職との連携により、家族の希望があれば看取りをおこなっている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体が医療法人という特色を活かし、利用者さまの健康管理に力を入れられていました。管理者をはじめ職員が一つになり、利用者さまの健康・生活重視のケアに心掛けている姿が見られるグループホームでした。自分たちが出来てないところ・こんなことをしたいなとゆう思い・夢に向かい、日々努力、改善されている姿が印象的で、活気を感じました。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

1階

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内に掲示及び業務日誌に添付している。 ケア会議にて皆で音読し、ケアで活かしている。	毎月の会議時には参加者全員で音読し、管理者：職員が理念に関し理解に努めている	報告や話し合いを密にしながらスタッフひとりひとり質の向上に向けサービスができるよう活かしていただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	夕涼み会の際、近所の人と中学生を招待した。 又、近所の飲食店には、年に数回、食事・喫茶を目的に外出している。	地域の方に駐車場を開放し夏祭りを開催し多くの方の参加があったようです。すいか割り、カレー作りをするなど地域との交流にも努力をされている。	以前は地域との交流が出来ていなかったとの反省から管理者：職員か一つになり夏祭りとう形になったことの努力は素晴らしい、これを土台によりいっそうのステップアップを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を作成し、回覧している。 運営推進会議にて、近況等報告している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域包括、民生委員等を交え、話し合っている。	年に2回行っているが実施調査の時に3~4回行うように助言されているようです。2ヶ月に1回の開催にむけ、前向きに努力をされています。	まず定期開催が出来る体制作りをお願いしたい。管理者だけが取り組むのではなく職員も一緒に努力をお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括の方に運営推進会議に出席してもらおうよう、声かけている。 居室の空きが出た場合、市役所の保険課の方に相談している。	事務所の実情は市役所の保険課の方が相談にのってくれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の理解はしているが、玄関・居室窓の施錠しているのが現状。 窓から外に出ようとする方がいる為、安全面を重視している。	職員教育として身体拘束はしていない。入居者おひとりに対して安全性を図るために衣服のベストを利用して車椅子から転倒しないよう配慮している。	拘束と安全面の違いを把握し拘束の知識を身につけ、職員教育に活かしていただきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等は行っていないが、防止には努めている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ある程度、理解はしているが、制度を利用する対象者が、今のところ居ないので活用はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結の際は、十分に説明を行い、改定の際には、文章を送り、後日、十分説明出来ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、定期的な電話連絡の際に要望等を聞いている。	細めに連絡、報告を行い改善点があれば意見を頂き運営にいかしておられました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で意見を聞き、話し合い出来る事は実行している。	管理者を中心に、会議の場だけでなく職員が日常的に発言できるような環境づくりに努力をされていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが労働意欲を持てるよう、十分に配慮してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加を奨励してくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加等で同業者と交流し、連携をとるよう勧められています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面接時に家族、本人より情報収集し、ケア会議でスタッフ皆が情報を共有し、ケアに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを傾聴し、入所後も定期的に連絡し、状態を報告及び、家族から電話、面会があった場合に情報を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接の際、十分な聞き取りをしている。生活歴、家族が困っている事、趣味等聞き取りスタッフ間で、情報を共有しケアに活かしている。また、病歴等を詳しく聞き主治医との連携に活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を一緒に摂り、コミュニケーションを充分にとり馴染みの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に会いたいと訴えがあれば、スタッフが家族に連絡をとり、面会を頼んでいる。又、原則として受診時は家族対応でお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人との関係は、手紙・はがき・面会により支援している。	家族の意向に合わせており友人の訪問もあり、家族の協力も得て以前から利用していた床屋に散髪に行くなど、関係づくりに努力をされていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事、団らんの際の席順を考える事で対応している。 他の誰とも馴染みにくい場合は、なるべくスタッフが付き添う事で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰の場合は、本人の暮らしが落ち着くまでは、電話連絡している。 又、退去時に本人の生活状況を関係者及び家族に伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。入居者の意向を聞いてなるべく実行するようようにしている。	理解力が低下しご本人の意向を把握するのが難しいが、出来るだけ自由な暮らしが出来るよう支援し、自己決定を促すよう場面作りをするように努められていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時に本人又は家族、ケアマネからの情報収集し、入所後も随時、家族、ケアマネから情報提供してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察。 申し送り、月1回のケアカンファレンス等により把握できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間のみでの介護計画の作成になっている。	ケア会議を開催しそこで職員が参加し、職員の目線からの意見も聞きて、介護計画に反映されているようでした。	それぞれの意見を出し合い新しい考え方はないか課題をみつけ、その人らしさが活かせるような介護計画を作成する
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録、業務日誌に記入。ケア会議でスタッフ間の情報を共有し、ケアの対応を統一している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例えば外出のニーズがあれば、可能な範囲で対応している。 ただし、労働力に余裕がある場合に限られがちである。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りの際、参加者に駐車場まで入ってもらい、みこしを見て記念撮影等をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	他の病院を受診する際は、家族に相談し、耳鼻科・歯科等、専門外の受診がある場合は、なるべく馴染みのある病院へ受診されている。	かかりつけ医を中心に支援しているが緊急時、専門外は個別化されている。また、個人記録に記入している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診、訪問看護時及び急変時に些細な事と思えても様子を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を渡している。 又、聞き取りに対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族、介護スタッフで話し合いを行い、看取りの方針を共有し、実行出来ている。	医師、看護師との連携が十分にできており、緊急時もすぐに駆けつけてくれる体制が出来ているようです。 スタッフの業務に対する意欲も高くなり、質の向上にもつながったようでした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、勉強会において、急変時の対応を勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防災訓練をしている。 地震体験車に乗り、地震体験をするなど、地震を想定した訓練もしている。	防災訓練の知識を高め実際に起こった場合には冷静さ、平常心、優先順位など機敏な行動が、取れるよう日頃から身につけておよい体験が出来たようです。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に敬語を使うと言った声かけはしていないが、個々に合わせた適切な声かけや対応は出来ている。	生活歴を大切にしながら一人ひとりの感情を引き出せるような言葉掛けを意識しながら目配り、気配りが出来ていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	余暇活動においては、自己決定を優先しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の習慣を尊重し、ニーズがあれば支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、食器拭き等は、出来る人に手伝ってもらっている。	一人ひとりのペースに合わせた食事を提供している。 出来る人には野菜の皮むきなどのもされていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の調整。 水分は定期的に勧め、なるべく多く摂取出来るよう支援している。水分摂取量も記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシによるブラッシング、うがい、義歯洗浄剤により、ケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔の把握。 定期的なトイレ誘導により、トイレでの排泄は出来ているが、失禁がある事があり、ほぼ全員の方が紙パンツを使用しているのが現状。	プライバシーを配慮しながら拒否される人には、時間差をつけてスタッフも替えての対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物での工夫は出来ている。 運動はテレビ体操を日課としている。 定期的にトイレ誘導し、トイレで排泄を習慣づける支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状では、曜日をスタッフが決めている。	入浴は週3回実施し一人ひとりの状況、状態に合わせた支援をしている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主に本人の希望通りにしているが、一日中ベッドで過ごす事がないよう、フロアーで過ごすよう支援する場合もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、スタッフが管理している。 薬が変わったり追加される場合等は、スタッフ間で情報の共有、状態観察を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の業務の間に、スタッフ間で話し合い、提供出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望される方は、主に家族に頼んでいる。 スタッフが、買い物等の支援をする事もある。 今後は、外出支援を強化していきたい。	外出をされる方は一部の方に限るが買い物は家族から頼まれる事が多く主にスタッフが購入しているようです。	一日の生活の中でメリハリをつけるためにも外出支援を設け、外に出るチャンスを作り外の空気を吸うことの喜びを味わっていただけるよう努力していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で管理している。 外出時は、本人に精算してもらう事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、はがきのやり取りは、ニーズのある方には支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、居室のドアに季節に合った飾り物をしている。落ち着いた色調の家具を使い居心地よく過ごせるようにしている。	ほどよい空間の中で、家具の色調もよく一人ひとりの観察ができて、アットホームな空間作りができていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席等の配慮で対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある品は、遠慮なく持ってきてもらうよう、家族に伝えている。	安心感を得るためにもでいる限り、家庭に近い環境と雰囲気作りに努め個々の個性を活かした働きかけが見られました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室、脱衣場等に名前を表示し対応している。		